

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773001280		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)		
所在地	大阪市東淀川区相川2-4-2		
自己評価作成日	平成29年5月7日	評価結果市町村受理日	平成29年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、1ユニット9名の利用者様に3人の職員が対応しています。必要な知識や適切な介護が出来る馴染みの職員が利用者様一人ひとりの状況に合わせ生活に寄り添った介護をしています。役割を持ち張りのある生活ができるよう又、利用者様も職員も共に楽しく過ごせる施設作りを目指しています。重度化や看取りに関しても医療連携し本人様・家族様・職員も安心できる体制があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは買い物や外食などは地域の店舗の利用を心がけ、敬老会や近隣大学の催し、植木市やオレンジカフェなど多くの地域行事に声をかけてもらい利用者と一緒に参加するなど、地域に温かく受け入れられ交流を深めています。食事は畑で収穫した野菜なども用いて調理し、利用者は職員と共に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で会話を楽しみながら食事を摂っています。また利用者が重度化し全員での外出が困難となる中、利用者の状態に合わせた外出先を検討し、少人数で商店街や外食に出かけたり、近隣での花見や広い庭で外気浴をするなど工夫しながら取り組んでいます。また医師や看護師と連携を図り、家族には付き添いなどの協力を得て、最期まで住み慣れたホームで過ごせるよう話し合いを重ねながら終末期支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で経営理念やコンプライアンスの読み合わせを行い理念を共有し実践に繋げている	職員間で話し合い「ありがとうと笑顔があふれるたのしい家」と独自の理念を作成しています。理念は玄関やフロアに掲示し毎朝唱和すると共に職員の入職時には理念に込めた思いを伝えています。職員が楽しく仕事をするのが利用者の笑顔に繋がるとの考えの下、「ほめカード」を活用してありがとうの思いを伝えながら利用者の笑顔を引き出せるよう実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域の催し物や行事に参加しています 買い物などは地域での購入を心掛けています	回覧板や運営推進会議で情報を得て敬老会や近隣大学の催し、餅つき、オレンジカフェ等に利用者と一緒に参加し、餅つきでは職員がつき手を担っています。買い物や外食等は地域の店舗の利用を心がけ、ホームの化粧教室開催時は地域に案内をしています。また近隣住民から介護相談を受けることもあり丁寧な対応に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所でオレンジカフェの開催時、身障者用のトイレが必要な時は使用できるよう連携し利用者様もカフェにも参加させていただきました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催し地域包括・利用者様・家族様・町会の方にご出席頂きご意見や要望または相談などしサービスの向上に努めています	会議は複数の家族や利用者、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下、隔月に開催しています。サービスの状況や行事、研修、事故等の報告を行い意見交換をしています。参加者から外出についてアドバイスをもらい、利用者の状態に合わせた外出先を検討し、少人数で商店街に買い物や外食に行く等工夫した外出支援に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括開催の勉強会・事例検討会に参加して情報収集しています	分からないことや相談などは随時担当者に電話したり役所の窓口に出向きアドバイスをもらっています。集団指導に出席し情報を得たり、研修の案内が届いた際は内容により職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の研修を受け周知していません。身体拘束は基本行いませんが安全に誘導するため必要な時は家族様の了承を得ています。玄関扉は安全上施錠していますが外に出たい様子があれば一緒に出掛けています	身体拘束に関する研修は基本的には全職員が受講し、夜勤者には伝達をしています。就寝時のみセンサーマットを使用している方は、家族に毎月了解を得ると共に必要性を検討しています。フロア出入り口は施錠をしていますが外に行きたい方には付き添ったり、ユニット間や庭で気分転換を図り閉塞感の無いよう配慮しています。言葉による行動の制止が見られた時は職員が互いに注意をしています。	

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修を受け周知徹底しています。不適切な言葉づかいや対応は職員間でも注意し合い虐待防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使用している人はいません。職員は人権及び虐待・身体拘束防止研修を受けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には解りやすく説明するように心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険の更新時・面会時・運営推進会議などで本人や家族様からご意見や要望などお聞きしたり意見箱を設置したり本社にはお客様相談室があり意見や苦情に対応できるようになっています	利用者の意見は日々の関わりの中で聞き、家族からは来訪時に様子を伝える中や運営推進会議、法人による満足度調査等で聞いています。家族からは外出の機会について意見が出され利用者の状態に合わせた外出先を検討し、少人数や個別の外出に繋げています。また職員の言葉遣いについても意見が出され、法人を交えてカンファレンスを開き改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りの時や月に1回のカンファレンス時日々の業務の間でも意見や提案があれば聞いている 本社には業務提案書があり意見や要望が伝えられます	職員の意見は月に1度のカンファレンスや日々の申し送りや業務の中などで聞いたり、法人に直接出せる業務提案書もあります。職員の意見はできるだけ実施し、その後職員間で再検討し決めています。職員からは活発に意見や提案が出されており、ユニット間の協力体制や物品購入などに繋がっています。また年に1度の管理者との面談や職員の様子を見て声をかけ話聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制度の撤廃で自分で退職が決められる。 希望休・夏冬休を取得しノー残業と有給消化をしやすいよう配慮しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が多くあり新入社員には丁寧な研修制度があります。社内外の研修の援助もあり各職員はスキルアップを図っています		

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区のグループホーム連絡会に参加し情報や意見の交換をしている 自社の他施設合同での研修・交流会がある		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前の面接時にご本人・家族様の不安や要望聞き取り入所当初は気付いたことをスタッフ間で共有し信頼関係を気付けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学で雰囲気を感じて頂き面接・契約時に現状の困りごとや希望をお聞きしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族様の希望のと今何が出来るのかを把握し、できる事の継続を検討し計画対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさをなくさないよう、家庭的な雰囲気の中で孤独にならない様な心配りをします 誰かの役に立っていると感じられる支援を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、ご本人・家族様・職員・地域が協力しご本人の生活を支援していきたいと協力をお願いします。施設行事・レクリエーション・外出・家庭菜園等ご家族様や地域の方の協力で成り立っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。家族様やご友人から電話があったりかけたい時に電話できるように支援しています。	友人や親戚、教え子などの来訪があり、居室やリビングなどの希望を聞きながらお茶や椅子を用意し、ゆっくりできるよう配慮をしています。長年の友人からの電話を取り次いだり、職員が付き添い懐かしい商店街に買い物に行っています。また家族と馴染みの美容室に行ったり、法事や親戚に会いに行く方もおり、スムーズに外出できるよう準備等を支援しています。	

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今日の様子で席や居場所を考え、ご利用者同士の関係がスムーズにいくよう配慮しています。ご利用者同士が支え合える関係が目的です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もご近所の方にはイベントのお誘いのチラシを投函したり、近くに来たのでご家族様が立ち寄ってくださいます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し普段の会話の中や利用者様の様子から意見や要望を把握している	入居時に本人や家族と面談し暮らし方の希望や生活歴、趣味嗜好などを聞いたり、入居後1か月間は全職員が利用者について気づいたことを集中的に記録して共有し、意向の把握に繋げています。把握が困難な場合は改めて家族に聞いたり、日々の関わりの中で職員が表情などを見ながら汲み取るよう努め、カンファレンスで検討し思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人の生活歴や現状を聞き著しい環境の変化のないよう注意します。馴染みの家具など身の回りの物を持って来て頂いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の介護記録や連絡帳や朝礼などで情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合いご本人様のニーズや家族様意向・医師や看護師からの意見も反映させた計画を立てています。	介護計画はサービス担当者会議を開き職員からの情報や事前に確認した利用者や家族の意向を基に作成し、医療的な課題のある利用者には医師や看護師に見直しに向けて意見をもらい計画に反映させています。利用者毎の状況に合わせて6ヶ月から1年毎にモニタリングと評価、ケアチェック表を用いて再アセスメントを行い、継続する場合は日付を更新しながら1~2年で介護計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・特記事項・職員間の連絡帳・診察ノートなどを共通の情報とし、重要な事は申し送り時に再度口頭で伝えます。チェック表を活用し介護計画にも反映します。		

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の都合のつかない時の外出などは柔軟に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を深め利用者が地域の一員となれるよう努めています。地域の行事に参加し顔なじみになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、ご本人・ご家族に提携医の説明をし、了解を頂き月2回の往診をお願いしています。急変時はすぐ往診対応が出来、他科受診や、緊急時には紹介状や診療情報を頂き早急に適切な治療を受けられます。	かかりつけ医を継続できる事を説明すると共に提携医の24時間対応可能な体制や月2回往診を受けられる事等も伝え、現在は全員が提携医に変更しています。専門医を継続している方は往診を受けたり家族と受診しています。また急な体調変化時は提携医や訪問看護師の指示をもらい対応し、入院が必要となった際には希望の病院に入院できるよう提携医が紹介状を書いています。必要な方が訪問歯科や訪問リハビリなどを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康管理をしています。ご家族・職員の相談に対応してくれます。提携の医師との連携を密にし医療連携がスムーズに出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご本人に面会したり、必要な物を届けたりします。ご家族と病院の説明を聞き、退院後の生活がスムーズ出来るよう努めます。病状によっては訪看の協力を得て早期退院に繋がります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の希望をご家族様・医師・施設の三者で話し合い、病状の変化のする都度三者で話し合います。ご本人・家族様の希望を優先します。	重要事項説明書と共に終末期に関する指針を基にホームの対応について説明しています。看取りを支援する際は医師の判断の下、家族や職員で話し合いを重ね、家族には付き添いや泊まり込みなどの協力を得たり、職員間では好きな食べ物や食べやすい食事の提供など、利用者にとって最適な支援となるよう検討しながら取り組んでいます。スキルアップに向けた看取り研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急マニュアルがあり職員は初期対応の研修を受けています。ADEも設置し職員は研修を受けています。		

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施しています。訓練時の注意事項を職員間の情報として意識しています。訓練時は近所の方・家族様にもお願いしています。町内の防災訓練に参加しています。	年に2回通報や初期消火、避難誘導などの消防訓練を実施しています。昼間想定は消防署の立ち合いを得て行い、夜間を想定した独自の訓練では運営推進会議のメンバーの参加を得ています。また訓練実施時は近隣に案内し参加を得たり、町会の訓練には管理者が参加をしています。米や水などの食糧を備蓄し、法人から新たに食料や毛布などが届く予定となっています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人権研修・虐待の研修を受けて、ご利用者を尊重し、声掛けを大切に丁寧な対応とユマニチュードを実践しています	法人の人権に関する研修は全職員が参加することを基本にしています。利用者に声をかける場合は苗字での声かけを基本に目線を合わせる事や後ろから声をかけない、言葉と共にスキンシップも大切にしています。トイレへの声掛けは直接的な言葉を避けたり、同性介助の希望に配慮しています。不適切な対応はその都度互いに注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己選択できるような声掛けを行い出掛けたい所、食べたいものなどお聞きし外出や食支援などにも繋げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムに合わせて寄り添い希望をお聞きし決して無理強いはいはしないように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容日に本人様の希望に合わせて毛染めや髭剃りなどをします。外出時には化粧をし洋服一緒に選んでおしゃれをして出かけます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立は職員の手作りです。利用者様に盛り付けや下膳・食器洗いなど手伝っていただきます。食器の一部は馴染みの物を使用しています。好みの飲み物や希望のおやつも提供します	業者の献立に沿って食材が毎日届き、畑で収穫した野菜で一品加えたり、利用者の好みに配慮しアレンジを加えながら食事を作っています。利用者は盛り付けや洗い物などのできることに携わり、職員も利用者と一緒に談笑しながら同じ食事を摂っています。弁当を買う日や近隣へ外食に行ったり、飲み物も温かい物や冷やした物などの好みに配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にシルバー用の献立の材料を注文しています。ご利用者の状態を考えるとろみをつけたり、刻み食やミキサー食の対応をしています。飲み物はご本人の希望を聞き用意しています。水分量はチェックし注意しています。季節感あるおやつを用意します。		

グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に応じた口腔ケアをしています。うがいのできない方にはスポンジブラシなどで口腔内を清潔にします。夜間は入れ歯の洗浄も行います。月2回希望される方のみ歯科医が往診しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるように心掛け、立つことが難しい方には職員二人介助で対応しています。個々の排泄サイクルを把握しサインを見逃さずトイレ誘導を行います	一人ひとりの記録から排泄リズムを把握して声掛けやトイレへ案内し、重度の方も二人で介助しトイレで排泄できるよう支援をしています。入居時に失敗が多かった方もリズムを把握しトイレに案内することで失敗が減り布の下着へ改善した方もいます。排泄用品の選択や夜間の対応など個々に合った排泄支援を検討し自立に向うよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が心身に及ぼす影響は周知しています。内服調整だけでなく自然な排便となるよう乳製品やバナナなど提供したり排泄表を基に運動・水分摂取量にも気を付けています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	風呂嫌いな方には誘い方を工夫し、入浴が楽しみになるようノンアルコールビールや好みの入浴剤を用意しています。会話を楽しみながらゆっくり入ってもらえるよう努めています	入浴は3日に1度午後から夕方にかけて入ってもらい、希望に添って回数を増やす方もいます。一人ずつ湯を入れ替え、入浴剤を用意し好みで選んだり、職員とマンツーマンでゆっくり入れるよう支援をしています。また入浴を断る方は職員間で成功例の共有や家族に相談したり、湯上りに好みの飲み物を提供するなど工夫しながら無理のない入浴に繋がるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋で何時でも気持ちよく休めるよう換気や掃除、シーツ交換で清潔保持に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や副作用について診察ノートで職員間で情報を共有しています。提携薬局が月2回個々に分けて用意しています。服薬時は二人で確認し、誤薬に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・趣味などを把握し得意技などをいかした活躍で張り合いや喜びを感じられるようにと考えています。		



グループホームたのしい家東淀川相川(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設全体では音楽のコンサートや水族館に出かけたり、天気の良い日は太陽や風に当たり畑の収穫とともに喜び外出を楽しんでいます。	天気の良い日は近隣の散歩に行ったり、個別の希望を聞きながら買い物や少人数で喫茶店等に出かけています。植木市やオレンジカフェ、音楽イベント等多くの地域行事に参加したり、花見や水族館等行事によっては家族にも声をかけ一緒に出掛けています。また管理者の用事に利用者を誘ったり、多くの木々や花、菜園のある広い庭で外気浴や野菜の世話をする等外気に触れる機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でしているが一緒に買い物に行き買いたいもの購入できるように支援している 家族様の了解を得て所持している方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の許可があれば自由にしていきます。 切手を購入したり手紙を出しに一緒に出掛けます。 年賀状が届いたり電話の取次ぎも行っていきます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各お部屋の入口には季節を感じられるような飾りつけを折り紙で、毎月利用者様の孫・曾孫さんが飾りにきてくださいます。 建物の周囲には庭があり常に花が咲いています。 裏庭には季節の野菜や花を栽培し居室には温度計・湿度計を取り付け空調管理をしています。	共用空間は庭に咲く花を活けたり、五月人形や七夕飾りなど季節に応じた飾り付けを行い、利用者の家族が作った蛙などの季節感のある折り紙作品を毎月玄関や各居室ドアに飾っており、温かな雰囲気作りに繋がっています。テーブル席は利用者の関係を見ながら随時変更したり、室温については利用者に体感を聞きながら調整すると共に年間を通して換気にも留意し、快適に過ごせるよう配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面した緑豊かなフロアでリクライニングのソファに座ってゆっくり日差しを浴びながら鳥や猫・蝶が来るのを楽しむことができます 気の合うもの通し席をとなりにしお喋りを楽しめる方もいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にお願いし、今まで使っていた家具・洋服・日用品等を持ち込んでいただき馴染みのある空間を作ります。好きな歌手の写真・ぬいぐるみ・絵・時にはご主人の位牌・仏壇等があります。	入居時には本人が安心できるよう馴染みの物や大切なものなどを持ってきてもらうよう伝えていきます。テレビや筆筒、机と椅子、大切な仏壇や冷蔵庫を持ち込む方もおり、家族と相談しながら過ごしやすいよう配置をしています。また家族の写真や毛糸などの編み物の道具、好きな歌手の写真を飾る方もおり、その人らしい居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解りやすく表示しています。 ご本人のできる事・わかる事を活かしお手伝いを頼み感謝の言葉を伝えています		